

ずいそう

アジアマスターズ陸上に参加して



秋山 俊二

第16回 アジアマスターズ陸上競技選手権。2010年12月6日～12日、マレーシアのクアラルンプールで、アジア17ヶ国の選手が集う戦いに、私も参加致しました。

マスターズ陸上とは、40歳以上の男女が5歳刻みのカテゴリー別で、陸上競技を争うレースです。私は48歳、M45（45～49歳）というクラスです。年齢に上限は無く、M100というクラスで活躍されている方々もいらっしゃいます。今回は、日本から120名の方が参加されました。参加される方は一様にモチベーションが高く、年齢を感じさせない、諸先輩の前向きな生き方に大変感銘を受けました。

今回、私が挑んだレースは200m、400m、800mの3種目。最も得意な800mが初日でした。800mでは、9月に国立競技場で行われた全日本マスターズM45の部で、二連覇を達成しております。だからこそ、日本の代表選手として、恥ずかしい走りを見せるわけにはいきません。そういった想いが余計に緊張をもたらしたのか、いつになくガチガチで、どうなることかと思いつつレースに臨みました。外国人と競い合うという経験が今まで無かったため、対戦相手の身体を見ては、勝ち目が無いなあと弱気になる自分との戦いです。

800mには予選が無く、2グループに分かれての一発タイムレースとなりました。第2グループだった私は、第1グループの結果を見て走ることが出来る優位さがありました。第1グループトップ、カザフスタンの選手のタイムは2分12秒。全日本マスターズで2分7秒台だった私は、力さえ出し切れれば、必ず勝ると言い聞かせ、スタートラインに立ちました。

“On your mark”日本語で「位置について」という言葉に一瞬戸惑いながら、ピストルを待つ。そして「ズドン」という音が鳴り響く。通常は800mといえどもセバレートコースなのですが、今回は1組15名で、

最初からオープンコース。走る格闘技とも言われる800mですが、やはり想像していたとおり、肉弾戦です。足が絡まりそうな混戦の末、2分9秒39、1着でゴール。仲間が用意してくれていた、日の丸国旗をマントにしてのウィニングラン。日の丸をアピールできたことと思います。その夜は祝勝会を開いていただき、おいしいタイガービールで乾杯しました。

翌日は、400mの戦いです。前日の勝利は大変自信となり、リラックスして臨みました。ところが、いよいよ決勝という時、ひどいスコールと雷で1時間ほどスタートが延期されました。待ち時間に集中が途切れないように、何度も昨日のウィニングランを思い出し、敵は自分自身だと言い聞かせました。結果、タイムは53秒96、セカンドベストで2冠を達成できました。

3日目の競技は200m。あまり得意な種目ではないので、決勝に残れば上出来という思いで臨みました。しかし、決勝では混戦ながらも24秒75で優勝し、まさかの三冠達成に驚きを隠せませんでした。そして、閉会式での各国選手のすがすがしい笑顔に終わり無く、スポーツに限らず、何かに向かって突き進む想いは、たとえ言葉が通じなくても人を変え、新しい道を切り拓いてくれることを確信しました。

後になりましたが、大学までは陸上競技に明け暮れていた私が、スポーツに再チャレンジしたのは、45歳を迎えてからです。トライアスロン挑戦から始まり、マスターズ陸上へとつながり、全日本からアジアへ。そして、今年の7月にはアメリカ、サクラメントで世界マスターズに参加します。400mと800mの2種目で、世界のファイナリストを夢見て挑戦します。これからは仕事やプライベート、その他何事にもでもチャレンジ精神を持ち続けたいと思っています。

みなさんは50代？ それとも60代ですか？ まだまだこれからです。一緒に頑張りましょう！

—あきやま しゅんじ (株)イゲタブロテック 代表取締役社長—